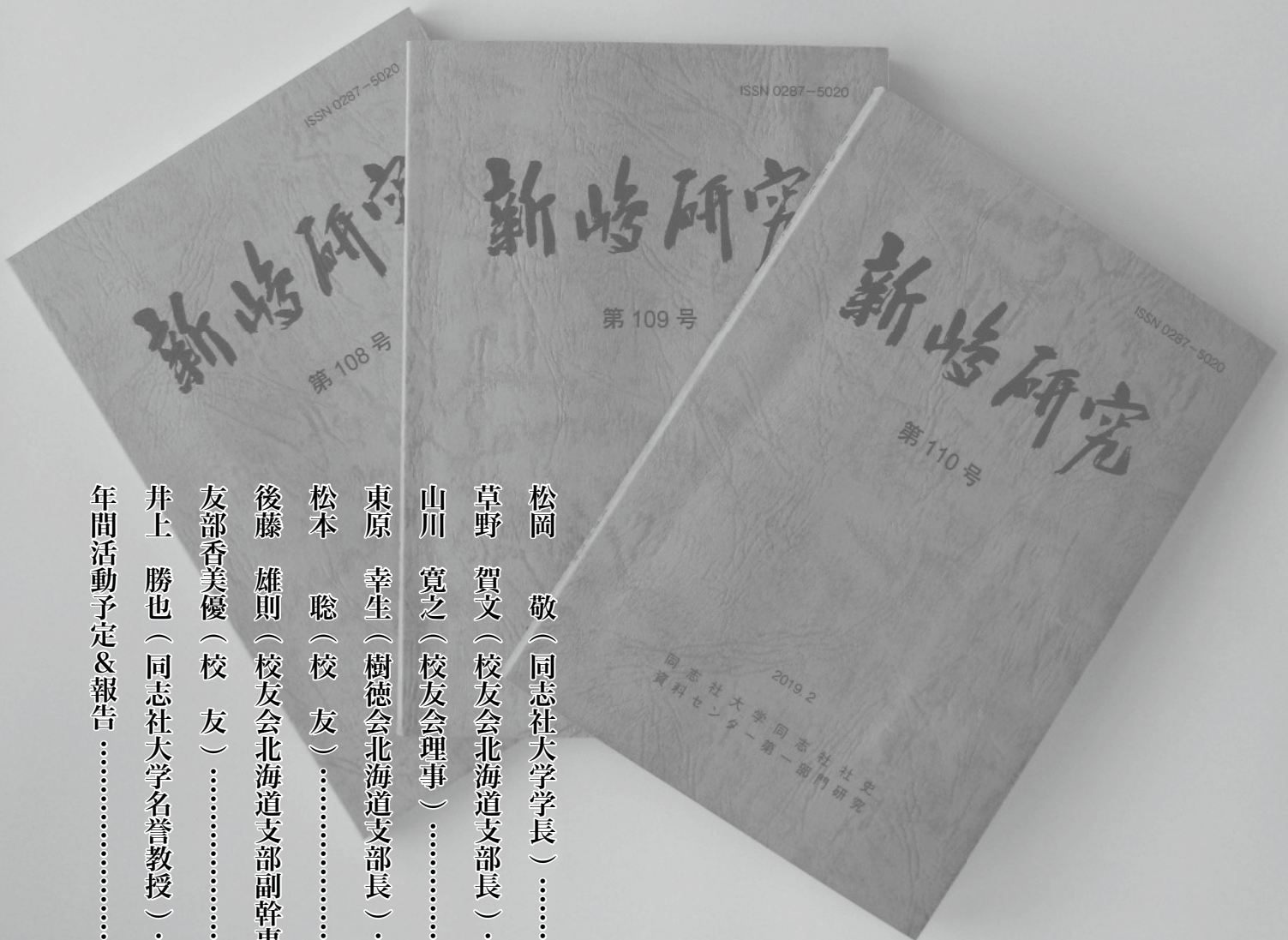




# 紫友

SHIYU

同志社校友会 北海道支部機関誌 再刊第 8 号 (2019年5月)



年間活動予定&報告	11
井上 勝也(同志社大学名誉教授)	6
友部香美優(校友)	5
後藤 雄則(校友会北海道支部副幹事長)	4
松本 聡(校友)	3
東原 幸生(樹徳会北海道支部長)	3
山川 寛之(校友会理事)	2
草野 賀文(校友会北海道支部長)	2
松岡 敬(同志社大学学長)	1

## 同志社校友会北海道支部総会の開催を祝して

同志社大学 学長 松岡 敬



同志社校友会北海道支部総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

校友の皆様には平素より、本学に對しましてご厚情、ご支援を賜わり誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

本学は創立者新島襄により、1875年（明治8年）11月29日に同志社英学校として設立されました。その後、新島は私立同志社大学の設立のために東奔西走し、アメリカへも募金活動に赴きました。しかし彼は長年の過労の結果、1890（明治23）年1月、神奈川県大磯で大学設立を目前にし、志半ばにしてたおれました。彼が描いたリベラル・アーツ大学設立の志はその後、教職員に連綿と受け継がれ、その後1912（明治45）年、専門学校令による大学として、さらに1920（大正9）年、大学令による大学として認可されました。

同志社創立から144年もの長きに亘って、本学にて良心教育を受けた卒業生の方々が、社会で躍動しております。新島の思いを精神的支柱にされる卒業生の皆様が、今なお交流を持ち、母校へ物心両面に渡るご協力をいただいておりますこと、学長としてこのうえない喜びであり、誇りとするところであります。

既にご承知の方もいらっしゃると思いますが、現在本学では創立150周年に向けた中期計画として「同志社

大学ビジョン2025」を掲げ、新たな教育改革に取り組んでおります。

現在、第4次産業革命といわれるAIやIoT、ビッグデータなどの科学技術が進展し、産業構造の変革や人々のライフスタイルなどの大きな変貌が予想されております。またグローバル化の波や情報化のスピードが非常に速く、10年後の姿を描くことが難しい、複雑かつ不確実な未来社会がそこにあります。しかしそのような状況においても、未来を牽引する素養を持った人物を本学で養成するべく、新たな学びの形を示していかなければなりません。そこで本学が取り組んでおります一例として「新島塾」を挙げさせていただきます。

2019年度から始動するリーダー養成プログラムである「新島塾」では、選抜された学生に対し、大学での学習の基本である「書を読む」ということを徹底的に訓練します。文系、理系を問わず、着実に定着した知識の上に、活発なディベートにより複眼的な視座を獲得するということを企図しております。夏には合宿も予定しております、今年度は歴史学者であるユヴァル・ノア・ハラリ氏著の「ホモ・デウス・下」を読み解くという大きな課題に挑戦する計画です。今後この新島塾で学び、学生が、知性、情熱、そして倫理観をもつて各地でリーダーとなり活躍していただきたいと願っています。

す。また同時に、新たなグローバル教育として「EUKYパス」も新たな教育の展開を実施いたします。ぜひ同志社大学の「学びの形の新展開」にご期待ください。

最後になりましたが、ご列席のみなさまが、この場を通じて相互の交流をさらに深められますとともに、今後ますますご活躍されますことを心から祈り申し上げます。



## 支部活動に思う

支部長 草野 賀文（1984年 法学部卒）



私が支部長を仰せつかったから4年が経とうとしています。山川さんが支部長になられたその年、高島さんから「社業に専念したので後を頼む」とわざわざ会社までお越しになり乞われて幹事長

になりました。その時から今日までの13年間、色々な方に支えられて来ました。HPにも書きましたが、気配りに優れ良心を手腕に校友会活動を続けた元・前支部長達をお手本にと、頑張っているつもりではあります

がその境地には達することが出来ません。校友会会長がダイキン工業の井上会長になられてから、校友会も活性化。年に一度評議員会出席の為に上洛するようになると、公の仕事をしている自負なのかそれまで以上に校友会活動にのめり込むようになりました。

山川さんは誰もが知る「手紙魔」。挨拶から依頼そして礼状まで真似の出来ない文章を達筆でしたためることを北海道支部の殆どの方が知っております。「手紙魔」は真似できてあ

の文章と達筆は少々のことでは真似できません。思い立って20年ほど前、ユーキヤンのペン字添削講座申込書を投函しました。さてその結果は、ご想像にお任せします。同窓の事に関して

に感動させられたのは私だけではない筈です。今年から学校法人同志社の評議員を務められており、当支部は全力で支援するつもりです。

幹事長を仰せつかったその年から、盟友となる武田事務局長が誕生しました。同じ江別在住と言うこともあり飲み会の帰りの電車は殆ど一緒になります。何を隠そう私の家内は「武田さんと一緒」と電話しておく

と、どんなに遅くてもお小言を頂戴しなくて済みます。一緒に仕事をするようになりその能力の高さを思い知らされることとなります。我々が山川先輩より秀でているのは、メールを使えることとレスポンスの速さだけだと思っておりますが、武田さんの仕事をこなす能力には緻密さが加わるのです。お願いした内容はすべからく処理するのは勿論のこと、私が躊躇している

と背中を押してくれます。道内のクラブ訪問や広告取りの飛び込み営業にはなくてはならない存在です。支部長就任と同時に悩まされたのはキャビネットの陣容です。その人柄由に先輩である伊藤さんと吉川さんをお願いをしました。私の思惑は的

の仕事中で一番の成果だったと思っております。宮澤幹事長や中村会計幹事の能力の高さにも救われているのは勿論のこと、頼りになる幹事会の存在は今のオペレーションには不可欠のものです。幹事会の面々は脂の乗った世代、月例会の欠席も致し方ないと思いつつ、この一点だけは不満の残る所ではあります。

武田事務局長とは、最初の任期が終る頃、十年を区切りに退く約束をいたしました。元・前支部長共ほ十年を区切りに退いております。私は国内の校友会では一番若い支部長です。前支部長が一回り違う私を指名したことの意味が京都に行くようになり理解できませんでした。この素晴らしい先達支部長に恥ずかしくない仕事と決断をしたいと思っております。



## 校友会活動雑感

北海道・東北地区担当理事

山川 寛之（1969年 経済学部卒）

同志社校友会活動に携わる様になつて、やや40年になろうとしてい

る頃、十年を区切りに退く約束をいたしました。元・前支部長共ほ十年を区切りに退いております。私は国内の校友会では一番若い支部長です。前支部長が一回り違う私を指名したことの意味が京都に行くようになり理解できませんでした。この素晴らしい先達支部長に恥ずかしくない仕事と決断をしたいと思っております。

て、やや40年になろうとしていやはや、母校同志社にご縁を頂き人生のほとんどを共に歩んでいる訳である。我が人生イコール同志社ということになる。これは自論で、今もそうしているが、たかが親睦会活動なんだが、基本的には仕事の感覚で（つまりビジネス感覚で）真面目に、真剣勝負で校友会活動をして行くことが必要と考えている。当時は銀行員だったが、同窓の後輩の役に立つなら、（就職や仕事の上で）勿論最終的には自分の仕事にもプラスになればという欲張った願いを貰って来た。

要は、おせっかい焼き、世話好きのなせる技なのである。当初は支部活動費つまり葉書や切手

訳である。現在は校友会本部からの支部活動支援制度が出来て、通信費位は支給されるので、以前からみると、正に隔世の感がある。しかしこれとて大学が卒業生から会費を代理徴収して下さる様になって初めて成立つもので、誠に有難い限りである。この仕組み制度に甘えること無く、自らが既卒者に対して呼び掛け徴収の汗を掻く努力を忘れてはならないと考えている。私は今年、囃らずも学校法人同志社の評議員を仰せつかることになり光栄の極みであるが、これとて自ら望んだ訳でなく正に晴天の霹靂で、先輩の欠員補充である。就任の経緯を考えると、世に母校の評議員・理

事になりたい人は五万といる訳で、自薦他薦が尽きないと聞いている。それも世間で功なり名遂げた方々ですら、名誉の勲章の様である。自分がその役に相応しいか否かは、これからの努力と貢献如何といったところで、頑張りたいと思っている。私の校友会活動も終点に近づきつつあり今後尚一層、母校同志社の為最大限の努力をする気持ちでいる。時恰も創立150周年へ向けて大学は大事業を展開中であり、これに協力する。又、その時はおそらくこの世には居ないだろう建学200周年で完成した同志社大学を見られないのは残念だが、そのリレーのバトンをしつかり後輩達に継ぎたいものである。



## 二度の改元

松本 聡 (1992年 商学部卒)

この原稿依頼を受けた時、簡単に引き受けたものの、同志社に通っていた時の記憶が正直あまりないということ、サークルには所属していたもののクラブ活動などしておらず、アルバイトばかりしていたので校歌もわからない有様で、皆さんから大学時代のお話を聞くにつけ「皆さんよく覚えていらっしやるなあ」といつも思っていたくらいです。

1992年(平成4年)卒の私が同志社の門を叩いたのは、1988年(昭和63年)4月、期しくも今年度入学される

方々と同じく、入学後に元号が変わるという経験をした世代です。

というところで30年ぶりに過去を振り返ってみるわけですが、入学前後で非常に思い出深いことといえば、私大の中では群を抜く学費の安さだったにも関わらず、入学前に大幅に値上げされ、60万円台だった初年度納付金が80万円台になったこと、開校して3年目の田辺校舎に二度も行かず、また住む場所もパンフレットと地図だけで精華町に決めてしまひ、ワクワクしながら北海道から出発し

(次ページへ)



人一人ハ大切ナリ  
同志社大学商学部樹徳会 北海道支部長  
交洋不動産株式会社 代表取締役社長  
東原 幸生 (1982年 商学部卒)

平成も終わりを告げようとしているこの頃、我家の周囲でも桜の花が美しく開き始めた。桜といえば思い出すのは、四十余年前同志社に入学するため初めて訪れた京都の桜である。修学旅行のない高校に通い、札幌受験で同志社に進むことになった私にとって、

かかる身となった。我社は不動産仲介、ビル業、そして大通ビッセ (BISS) を営んでいる。BISSはスイーツ、ライフスタイルショップ、カフェ・レストラン等20数店からなる商業施設で、地下鉄大通駅に直結している。

京都は生まれて初めて訪れる街だった。雨の降った入学式の朝、北区玄塚の下宿から大学に向かうバス停のそばで咲き誇る八重桜。御所の枝もたわわな枝垂桜。北海道の山桜しか知らなかった私に、最初のカルチャーショックを与えてくれたのは桜だった。

その大通駅南北線のホームのBISSのコルトン(内照式パネル看板)広告のすぐそばに、新島先生の写真に「人一人ハ大切ナリ」という言葉が添えられた同志社のコルトンがある。この言葉にまつわるエピソードは以前武田事務局長がMLで述べておられたが、何というヒューマニズムに満ちた言葉であろうか。私はこの言葉の前を通る度に背筋が伸びる思いがする。民主主義は社会人として、会社法は企業人として最も重要な原則の一つ。今の社会は多数決を基本に成り立っている。しかし、それだけではいけない。私たちは人間として、多数決では決められない「人一人ハ大切」という精神の尊さを忘れてはいけな

別館を中心に回っていた。そんな私もギリギリで単位をクリアして何とか4年間で同志社を卒業。35年余りを過ごした銀行生活を終え、2年ほど前から、不動産会社の経営を預

いと思うのである。



(前ページより)

たのに現地に近づくにつれ広がる田園風景に、どんどん青ざめていったことなどは鮮明に覚えています。通学もホームだけのような近鉄の駅から興戸もしくは三山木の片田舎の駅で降りてそこから途方も無い距離を歩いて、最後に坂道で駄目押しされ、1年目はすっかり萎えてしまっていた記憶です。さらに5月から梅雨と暑さで本当に10キロくらい痩せてしまい、テスト期間が終わるとともに逃げるように北海道に帰りました。

田辺校舎での大学生活は、本当に大学の中だけで完結してしまい、朝学校に行くに授業にでて3つある学食か体育の日は奥の食堂で昼食を取り、午後からの授業に出て、その後大学の近所でアルバイトをして帰る、くらいしかやることなく、かといって図書館で勉強するわけでもなく本当に時間を持て余していたと思います。

昭和から平成に変わり、田んぼの中の蛙の鳴き声の聞こえる部屋に嫌気がさして、2回生になる時に住んでいた精華町から田辺通いを考慮して宇治市大久保に引っ越しました。学校から離れてしまったために通学が辛くなるのと同時に、どうしても自家用車が欲しくなりアルバイト代でポロポロの中古車を購入しました。そのおかげで行動範囲は大幅に増えて、京都以外はあちこち行きました。そのせいで必要な費用は急が増え、車のがソリン・修理代を稼ぐためのアルバイトに忙殺された生活を送っていました。今出川に通うようになってからは、ゼミで商学部なのに至誠館でなく弘風館へ、

残した第二外国語のドイツ語と一般教養の授業に新町に、昼食にM地下もしくはは近隣の喫茶店へ行くくらいで、あとはアルバイトに精を出す毎日でした。おかげで現在みなさんがおっしゃる今出川やその界限に關することの大半を知らず、話についていけないことが多々あります。

夏休みや春休みも、同級生に北海道旅行がしたいと言われると、夏休み中に一緒に車でキャンプをしながら1週間ほどかけて道内を周り、冬休みは雪まつりが見たいと言われ3人ほど連れて実家に泊まりながら見に行き、せっかくの京都生活も結局北海道に縛られたまま4回生になり、就職活動をしながら慌てて祇園祭を見に行ったりと、逆に言うとは非常に贅沢な生活を送っていたと思います。

諸先輩方には体育会で活躍されていた方、勉学に励んでいた方、また最近の同窓の後輩の皆様も、当時とは比べ物にならないほどのきついカリキュラムや過酷な就職活動を乗り越えていらつしやることを考えると、自分の大学生活など、こうやって文章にしてみると本当に薄っぺらいなと改めて感じている次第です。

この年齢になってから校友会活動に山川前支部長にお誘いいただき、お世話になりながら、何度か今出川校舎に行く機会をいただいで、薄っぺらな大学生活の穴埋めをさせていただいているように本当に感謝しております。

これからも色々なイベントに参加させていただこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



## 令和に向けて

副幹事長

後藤

雄則 (1999年法学部卒)

同志社校友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成7年に札幌の地から、遠く離れた京田辺のキャンパスに足を踏み入れたときの感動は未だに新鮮に思い出せます。早いものであれから20年以上も経過しましたが、京都時代から紆余曲折を経て、司法試験に合格し、司法修習生となって検察庁で修習をしているときに、当時の札幌地検の川端検事正

からお声をかけて頂いて校友会とご縁が出来ました。

大学時代は、どちらかというと勉強より、京都の地での新たな出会いや一人暮らしの楽しさばかりを満喫し、法律に専念するよりも遊びばかりとなっていました。せめて京都らしいことをと思い茶道部に入部し、写真の寒梅軒で過ごした日々が唯一の京都らしかった時間だったような気がします。大学の中に、素晴らしい茶室があるというは同志社ならではの風景だと思います。

今では見た目も全く茶道と縁のない人間になってしまいましたが、同志社に行つたからこそできたこの経験はとても貴重なものと懐かしく思い出せます。大学時代は今から思えばかなり親

不孝な自由気ままな時間を過ごし、時間はあるがお金はないという中で、将来の不安を漠然と持っていました。今から考えればとても贅沢な時間だったと思います。同志社の原点である自由と良心の精神の中で感じることがあったのか、弁護士を志すこととなり、自分の事務所を開業して、2019年度から札幌弁護士会の副会長を拜命することになりました。

大学時代の自分からすれば想像もつかなかつたことですが、携帯電話やインターネットなど、平成の時代の移り変わりも今から思えば想像もできないことだらけです。

令和の時代も想像がつかないことだらけだろうと思いますが、自らの原点である同志社で培った精神で新たな時代を楽しみに迎えようと思えます。今後は札幌の地で、校友会に楽しく関わっていきたいと思えます。



## 京都の心の風景からエネルギー

友部 香美優（2001年文学部卒）

令和最初の春を迎えた札幌から、こ  
んには。2001年文学部（教育学  
専攻）卒、友部です。北海道支部の皆様、  
お元気でいらつしやいますか。

札幌で遅い春を待ち侘びる間は、あ  
の4年間に見た華やかな京都の桜の  
光景を脳裏に浮かべるのが毎年の恒  
例になっています。折に触れてリアリ  
ティーのある空想に耽りながら京都の  
街を旅できるのが、私たちの特権です  
ね。

平成最後の1年は、私にとって想像  
を超える出来事の多い一年となりまし  
た。特に9月の胆振東部地震は、皆様も  
全く予想外だったのではないでしょ  
うか。我が家は震度5強のエリアでした  
が、マンションの11階なので恐らく6  
や7ほどの揺れがあったと思います。  
テレビが飛んだり、多くの家財が損害  
を受けました。食器の破片で足の裏を  
切ったりもしました。

また、父が大病を患い休職すること  
になったことを受け、代わりに私が父  
の会社に入ることになりました。母方  
の祖父が創業して今年で60年になる食  
品仲卸の会社です。業界的に血気盛ん  
で元気な社員が多く、なかなか面白い  
光景を日々垣間見えますが、彼らの

お陰で会社が6年も続き、私も4年間  
京都で素晴らしい経験をさせてもらえ  
たのだなと思うと、感慨深いものがあ  
ります。若い社員たちも頑張ってくれ  
ており、頼もしい限りです。北海道の  
食の流通を担う一端として、今後も頑  
張っていきたいと思っております。

当たり前に思っていた平穏な日常は  
ある日突然180度ひっくり返ることがあ  
り、全ては当たり前ではないというこ  
とを痛感した平成最後の1年でした。  
激動の日々ではありましたが、小学校  
時代の幼馴染たちや、OB会の先輩方  
の励ましの言葉がエネルギーをくれた  
ことも大きく、時の流れや出会いの不  
思議さを感じさせてくれました。

昨今の世界情勢や訝しげな日本の未  
来、AIの台頭、インダストリー4.0な  
ど、更に想像を絶する時代に突入しま  
すが、再び大きな壁にぶち当たった時  
も、きつとあの頃の京都の心の風景か  
ら、エネルギーを得られると信じてい  
ます。

令和の始まり。皆様のご健康と益々  
のご多幸をお祈り申し上げます。

## 「北海道新島研究会」発足

新島先生は二度来道しています。特筆すべき  
は合わせて4ヶ月以上も滞在していること。

新島先生にとって北海道は特別な心の拠り所  
と言って差し支えありません。

校友の皆様、是非新島精神の探求を図ろうで  
はありませんか。

今号では、新島研究の第一人者で同志社大学  
名誉教授の井上勝也先生の最新論文をご紹介さ  
せて頂きました。（「新島研究」第110号より抜粋）

是非お読みになって下さい。

## 新島襄は強い人であった

井上 勝也

### 序論

2018年4月、「第1部門研究」(新島研究)で、私は北垣宗治先生と「新島襄は強い人であったか、それとも弱い人であったか」と題して論争したが、私は「新島は強い人であった」という立場で主張を展開した。そしてその時の原稿を加筆して『新島研究』110号(2019年2月刊行予定)に投稿することにした。以下「強い新島」に関する事例を列挙して、私の理解する「強い新島襄」を叙述したい。

### 本論 1

幕藩体制の崩壊の兆しが見える1843(天保14)年、新島七五三太は佐幕藩である安中藩の江戸詰の下級武士の長男として、当時情報が集中する江戸で生まれ育った。彼の青少年時代は欧米列強が虎視眈々と日本の独立を脅かす、いわゆる国家存亡の秋であった。彼は、イギリスが清国にしかけたアヘン戦争(1839-42年)のように、我が国が欧米列強に侵略されるかも知れないという強い危機意識をもっていった。彼の10歳の時の1853(嘉永6)年、ペリー(M. C. Perry)の率いる4隻のアメリカ東インド艦隊が浦賀にやってきて、翌年には軍艦を7隻に増やして江戸湾深く侵入し、武力的威嚇によって江戸幕府を開国させた。当時の黒船来航事件は、日本人にとってアヘン戦争以上に衝撃的であった。彼は我が国を取り囲む欧米列強の動向に注目して情報を収集し、例えば密航途中の箱館でロシアの動向を注視して、ロシア病院がおこなう日本人への無料の診療行為がロシア皇帝の深い意図からであることを見抜いている。彼は次のように言う。「予切に嘆ず、函樞の人民多年

魯の恵教を得ば、我が政府を背にし却て汲々として魯人を仰かん事を。嗚呼魯の長久の策を我政府察せざるは何ぞや<sup>1)</sup>。又彼は1853年に始まったバルカン半島のクリミア戦争にも強い関心を示して、ロシア人宣教師ニコライ(Nikolai)から戦争の情報を聞き出している<sup>2)</sup>。彼はこの戦争がロシアの南下政策の一環であることを見抜いていた。彼はまた箱館で実見した弁天台場について、我が国の丸い砲弾の飛翔距離から敵船に届かないのではと危惧している<sup>3)</sup>。

新島は1856(安政3)年、13歳で藩主に抜擢されて蘭学を学び始め、1860(万延元)年、17歳の時から約2年間、江戸の築地にあった幕府の軍艦操練所で高等数学と航海学を学んだ。彼はアメリカ製の洋式帆船帆風丸(180トン)に乗って航海実習をおこなっている。逆風には風待ちをしなければならぬ日本の帆船船とは違って、欧米では逆風でも帆の張り方で船を前方に走らせることを彼は知っていた。1860年、軍艦操練所に在籍中の彼は、アメリカに日米修好通商条約の批准書交換のために派遣されるポーハトン号や遣米使節の随行艦であった咸臨丸の乗組員たちからアメリカの事情をつぶさに聞き、先進国への関心を高めていったと考えられる。同年、彼は江戸湾でオランダ軍艦が停泊しているのを見て、堂々とした軍艦と日本の帆船を比較して、我が国と先進国の力の差を痛感し、先進国に対する関心を強める実物教育(object lesson)となったと述べている<sup>4)</sup>。

新島は1863(文久3)年、20歳の時に「ロビンソン・クルーソー」の重訳を読んで、28年間も絶海の孤島で孤独に耐え、再び人間世界に戻ってきた主人公の逞しい生き方を知った。この物語は平安末期に九州南方の鬼界ヶ島に流されて、そこで孤独のうちに最後を遂げた僧の俊寛とは対極にある。彼は同年宣教師ブリッジマン(E. C. Bridgman)が中国で出版した『連邦志略』も読んでいた。この書物はアメリカの歴史、地理、文化等を紹介したもので、彼には強烈なインパクトを与えた。即ちアメリカでは国家の最高指導者が国民によって選ばれるとか、「独立宣言」文の要約が載っており、貧しい家庭の子どもも無月謝で学校に行くことができる教育制度があり、身寄りのないお年寄りも不自由なく生活できる仕組みが共同体に存在することなどは新島には驚きであった。彼は上記の『連邦志略』を読んで「脳髓が頭から

とろけ出る程驚いた」(I read it many times, and I was wondered so much as my brain would melted [sic] out from my head.)と述べている<sup>9)</sup>。要するに彼は1864(元治元)年、21歳で密航を企てるまでに、当時、攘夷の可能性と方法を研究している若者が少ない中で、広く世界の状況に目を向けて積極的  
に国難に挑戦する若者であった。彼は我々が想像する以上に欧米の合理主義  
思想やキリスト教を理解していたと考えられる。

## 本論 2

新島が当時困難な密航を企てたのは、先進国の実態を知る必要があると考  
えたからではないか？ そして密航を企てるには自分の行為を正当化する大  
義名分が必要であった。彼の場合、当時密かに研究していたキリスト教の教  
義がそれを可能にした。布施田哲也会員が『新島研究』103号のpp.48-65で  
述べているように、「真理易知」も含まれる。それは新島の自由を拘束して  
いる忠孝の倫理を乗り越える力をもっていた。彼は1865年7月、ニューイ  
ングランドに上陸後、彼の保護者になるハーデー (A. Hardy) に次のよう  
に彼のキリスト教理解を披露している。「私はイエス・キリストが精霊の子  
(Son of Holy Ghost) であることが判った。そして彼はあらゆる世界の人々  
の罪のために十字架にかけられた。従って我々は彼を救い主 (Saviour) と  
呼ばねばならない。(省略) それから私は神に感謝しなくてはならない。私  
は神を信じ、神に正直にならなくてはならない<sup>10)</sup>といひ、「1つの考えが私  
の頭にひらめいた。それは私の両親が私をつくり育ててくれたが、本当は天  
父 (Heavenly Father) のものである。従って天父を信じ、天父に感謝し、天  
父の差し出す道に突き入らねばならない<sup>11)</sup>」。新島は日本の仏教ではなく、  
キリスト教の「天父」によって自分が生かされ、生きる方向を示されている  
という確信を得て密航という困難を可能にしたと思われる。彼は父民治に  
1867(慶応3)年3月、ニューイングランドから長い手紙を書き、保護者にな  
ったハーデーに「なんの望もありアメリカへ参られしか」と尋ねられた  
ので、「小子不取敢私義貴国へ罷越候は別義に無御座候、唯々種々の学科且  
聖經を修行仕、国家の爲万分の力を竭さんと存し、・・・」<sup>12)</sup>と書いている。

彼はアメリカで種々の近代的な学問を学び、人間の生き方を規定するキリス  
ト教の本質やデモクラシーを探究し、それが自国の将来のためになると考え  
たのである。

新島はニューイングランドに着くまでの約1年間に、ちゃんまげを切り落  
とし、生まれて以来したことのない自分の肌着はもとより、船長の肌着の洗  
濯まで引き受けている。彼はまた船賃の代わりに武士の象徴ともいえる二本  
の刀のうち長刀を船長に献呈し、小刀を8円で買ってもらって香港で漢訳聖  
書を買って求めた。彼は聖書を批読するうちに「ヨハネによる福音書」3章16  
節の「それ神はその独り子を賜ふほどに世を愛し給へり。すべて彼を信ずる  
者の亡びずして永遠の生命を得んためなり」(原漢文)に巡り合い、強烈な  
印象を受けたという。彼は後年この箇所は万星中の太陽の如きものであり、  
「福音ノ要」<sup>13)</sup>であると述べている。

新島はワイルド・ローザデー号の船主ハーデー夫妻の斡旋で、1865年  
10月 Phillips Academy に編入学したが、未だ英語が十分話せない彼はホー  
ムステイすることになった。Academy から歩いて数分の Hidden 家が彼を受  
け入れてくれた。主人の Miss Hidden はニューイングランドでは典型的な会  
衆派教会 (Congregational Church) に属する熱心なクリスチャンで、マサチ  
ユセッツ州で唯一の女子の中等教育機関である Abbot Academy の卒業生  
であった。彼女は知的レベルが高くインテリで、新島をホームステイさせて  
2カ月後の1866年1月にハーデー夫妻に「私共はジョセフが紳士 (gen-  
tlemen) であることがわかりました。(中略) 彼を家族の正規のメンバーと  
して遇しています」<sup>14)</sup>と報告している。ちなみにジョセフはワイルド・ロー  
ザデー号のデーラー船長が新島につけた名前である。

当時 Hidden 家には名門の Williams College を卒業してアカデミーの校長  
を勤めていたフリンツ (E. Frint) が彼の妻と共に下宿していた。1810年海  
外伝道を全米で最初に提案した大学を卒業したフリンツは一念発起して An-  
dover 神学校に編入学し、牧師を目指していた。新島はこのフリンツに早速  
「ヨハネによる福音書」3章16節の意味を尋ねている<sup>15)</sup>。フリンツとその妻  
は将来日本にキリスト教を宣教するかも知れない新島の熱心な指導者であっ  
た。



新島がニューイングランドで初めて入学した Phillips Academy は 1778 年の創立で会衆派教会に属する男子の中等教育機関であった。彼が編入学した 1865 年 10 月はテイラー (Samuel H. Taylor) 校長が 1837 年以來 30 年近くも校長職を務め、極めて厳格なピューリタンの道徳を生徒に施していた。新島もそのような環境のもとでニューイングランドの中等教育を受けていたといえよう。

新島が 8 年間過ごしたニューイングランドは 1620 年清教徒たちのプリマス上陸以來アメリカの歴史と伝統を受け継ぎ、市民の生活レベルが比較的高く、1867 (慶応 3) 年 3 月彼は父民治にニューイングランドの人々の生活を詳細に伝えている。彼は Phillips Academy と同じキヤンパスで学ぶ Andover 神学校の学生が「天上独一真神の道を修め」<sup>12)</sup>、「父母に孝を尽し、兄弟姉妹朋友隣人を愛する事已に齊しく」<sup>13)</sup>と書き、自分も「昔の七五三太とは大に違ひ深く此聖人の道を楽しみ、日夜怠らす其聖經をよみ、道を楽しみ善を行ひ、偏に他日の成業且国家の繁栄、君父朋友の幸福をのみ神折仕候」<sup>14)</sup>と書いている。彼は神学校の学生はもとよりニューイングランドの民衆がキリスト教を信じ、お互いに助け合つて活気に満ちた共同体の生活を楽しんでいることを詳しく報告している。彼にとつてニューイングランドは権力が人民に由来し、権力を人民が行使するデモクラシーと天上独一真神の道が共生する理想郷であることを父親や家族に詳しく伝えようとしているのである。

### 本論 3

新島はハーデインというボストンの大物の保護を受け、彼から将来を嘱望されていた。また周囲には新島の間人として、クリスチャンとしての成長を楽しみにしている人々がいた。彼は 1867 年 9 月、Amherst College に入学した。彼がボストンから 4 時間の汽車の旅を終えて到着した Amherst の駅のプラットホームにはシーリー (J. H. Seelye) 教授が彼を迎えてくれた。東洋からの留学生をホームで待つシーリー教授が我が子のように新島を遇している。新島はニューイングランドの冬の寒さに耐えられず、リュウマチに苦しんだが、暖房の不十分な寮からシーリー教授宅に引きとられ、夫妻から息子

同様の看護を受けている。Amherst College の学長を長年務め、連邦政府の議員を経験するシーリー教授が新島を家族の一員として持て成したのは教授の人柄、即ち彼のデモクラシーとクリスチャンとしての人生観からである。新島は江戸での師弟関係、即ち上意下達の権威主義ではなく、ニューイングランドの人々の人間平等と開発主義の手法に正当性を見出し、近代国家の在り方はかくあるべしと考えたのではないか。要するに新島は東洋と西洋、江戸とニューイングランドの人々の生き方の違い、宗教、文化の日本との違いを発見し、日本の将来を模索するのである。

新島が Amherst College に入学してすぐさま履修した科目に化学 (chemistry) があるが、クラーク (W. S. Clark) 教授の担当で、彼は同 College を卒業してドイツの Göttingen 大学に留学して博士号をとり、帰国後、母校の教授として教えていた。“Boys, be ambitious!” で我々日本人にも馴染みのある教授は 1876 (明治 9) 年 7 月、お雇い外国人として札幌にやつて来て、札幌農学校の教頭を務めたが、それまでの細かい校則を全廃して「紳士であれ！」(Be Gentleman!) これが唯一の校則である、と言った。札幌農学校という当時ロシアの南下を意識した北海道開拓の professional を育成することを目ざした官立の専門学校でありながら、professional を育成する前に gentleman 即ち円満な片寄りのない広い視野をもった人物の育成を重視したことは Amherst College の人間教育の基本理念であった。新島は在米中にどのような専門家でもその根底に木を見て森も見ることができると広い視野と主体的な人間の形成が重要であることに気づいたのは大発見であり、帰国後の我が国の教育の盲点をつく重要な視点である。

新島は 1872 年 Andover 神学校に在学中、岩倉使節団の通訳に採用され、米欧 8 カ国の教育・文化施設や制度を調査したが、とりわけヨーロッパの国々には長い歴史を有する大学があり、合わせてハンデインキヤッツをもった子どもたちや犯罪者の自立のための学校が充実していることに驚いた。彼はハーデイン夫妻に宛てた手紙で「ヨーロッパの教育機関を訪れ、教育の偉大な価値を発見することによって、ますますあなた方の私に示された親切をありがたく思います」<sup>15)</sup>と書いている。彼は欧米文明を創り出し、近代国家を建設し、それを牽引しているものは、キリスト教を信じ、デモクラシーを自

己の世界観とし、高等教育を受け、地方を興し、社会や国家のリーダーとして活躍する主体的な人間であるという結論を再確認したのである。

#### 本論 4

新島は1874（明治7）年11月、10年ぶりに帰国し、早速彼の構想する日本の近代化の実現に粉骨砕身し始めた。彼は会津藩藩校日新館の教授で、明治2年以降京都府の顧問に就任している山本覚馬（1828-92）という同志を得て、1875（明治8）年学校設立のために京都府と交渉を開始した。彼らは1000年の都で仏教、神道勢力の強い京都の地にキリスト教主義の中等教育機関をつくり、それを高等教育機関に昇格させて米欧のように近代国家の牽引車を引き受ける人物の育成を目ざしたのである。

次に新島の京都府や明治政府に対する交渉の姿勢を紹介するが、私は彼の強さを示す交渉の仕方を「正面突破作戦」と名付けた。彼は同年8月、山本覚馬と連名で京都府庁に「私学校開業外人教師雇い入れにつき許可願」を提出したが、次のように主張している。新島は「私義文部省御規則中に宣教師を雇入、学校教師ヲ兼志むる事ハ御許容無之様相心得候」<sup>16)</sup>と述べて、明治6年8月に文部省が「西教伝教士ヲ学校教師トシテ不可雇」という布達八十七号を出したことを知っていたが、文部省の布達を守れば亜国宣教師 J. D. デビスを雇うことができず、国家の近代化を押し進めなくてはならない時にふさわしくないと考えるので、「敢而犯則之罪を不顧」<sup>17)</sup> デビスを雇い入れることを認めてほしいと堂々の主張をしている。私は当時の日本人の中で国家権力を相手に理路整然と自己主張している強い新島を評価したい。これは10年に及ぶ米欧での研鑽の然らしむる結果である。とりわけ彼のキリスト教とデモクラシーはそれらを受け入れ、実行するには主体性の確立が求められるからである。彼は自分の良心と良識に照らして正しいと確信すれば、相手が国家であっても戦いを挑み、一歩も譲らない姿勢を見事といわねばならない。とりわけ彼の帰国後亡くなるまでの約15年間の生き方を見ると、強さに支えられた彼の人生観・世界観が滲み出ている。それは彼の確信であった。

#### 本論 5

1880（明治13）年、同志社英学校に「自責の杖事件」が起った。およそ9年にわたって米欧の教育を体験し、個體不羈な書生を圧束しないで彼らの個性を伸ばす教育観を是とする新島は、学校の都合で生徒たちの主張に耳を傾けず、強引にクラスを合併しようとしたことに校長である新島は彼らに謝罪している。我が国の上意下達のやり方は生徒に不満や泣き寝入りさせ、教育的でないことを彼は認識していたのである。通常教師は生徒よりも学問や人生経験を積んでいるが、それは相対的な差に過ぎないことを新島は Seeley 教授を始め米欧での教育体験で学びとっていた。当時新島のような考え方をする日本の学校や教師は極めて稀であった。私は彼の強さの秘密をこの点に見出している。

新島は全人教育 (liberal arts education)、キリスト教、デモクラシーの三位一体が近代国家を建設すると考えていた。彼は「予ハ多年米國ニアリ、又歐洲ヲ遊覽シテ、尤羨キハ諸國ノ大學設置ノコトナリ」<sup>18)</sup> という。欧米には多くの大学があり、国民が積極的に国政に参加していることを目の当たりにした彼は大学の設立に近代国家建設の秘密を見出していた。彼の大学設立運動は多くの支援者を集め、彼の気迫のこもった大学設立の趣旨で運動を盛り上げた。具体的な運動は1882（明治15）年から始まるが、彼は米欧で実際に見てきた大学の重要性を文章化している。彼の意図する大学は当時の帝国大学が目ざっていた国家に役立つ學術研究機関や国家の命令に忠実な高級官僚や専門家の養成機関としての大学ではなく、広い視野と適正な判断力を持ち、自己の立身出世のためではなく、広く社会や国家のために学問を用いる主体的な人物の育成を目ざす大学であった。彼の大学設立運動が最も盛り上がりを見せたのは、1888（明治21）年11月の全国の主要な新聞、雑誌に発表した「同志社大學設立の旨意」である。彼は翌年の1889（明治22）年2月に発布される「大日本帝國憲法」を意識して、天皇中心の国家体制が確立されるにあたって、上記の「設立の旨意」で「一國を維持するは、決して二三英雄の力に非ず、實に一國を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民

の力に拠らざる可からず、是等の人民ハ一國の良心とも謂ふ可き人々なり」<sup>19)</sup>と述べ、「立憲政体を維持するハ、智識あり、品行あり、自から立ち、自から治むるの人民たらざれば能はず」<sup>20)</sup>と主張する。彼は東京大学を意識しつつ、国家の方針に主体的に発言し、時には修正を求める人物の育成を目ざしているのである。

## 結論

新島は密航によって得られた米欧での生活、とりわけデモクラシーとキリスト教が近代国家にとって不可欠であることを悟り、1874 (明治7) 年帰国後の彼は、明治政府に対して自己主張をおこない、自己の信ずる道をひたすら歩み通した強い人であった。晩年の1888 (明治21) 年12月、押川方義の一致教会と新島の会衆派教会の合同問題が起こった時に、新島の周辺に合同に賛成する人が多く出た。しかし、一致教会が教会から選出された長老で組織する会議を重んじるのに対して、新島の会衆派は教会員の教会における平等を重視し、個々の教会の独立と自治を重んじるのが特徴で、彼は教義の違いが将来教会の間に摩擦を引き起こすことを恐れて教会の合同を進めることに慎重であり続けた。当時キリスト教徒の日本人は少しでも自分たちの立場を強化したいがために合同して教会勢力の拡大を望んでいたが、新島は組織 (polity) を遵守したのである。

1889 (明治22) 年11月、新島の最晩年であるが、当時同志社英学校の最上級生であった横田安止に宛てた手紙の最後の部分で、「小生學生之目的ハ、自由教育、自治教会、両者併行国家万歳、小生之心情御洞察可被下候」<sup>21)</sup>と書いているが、自由教育と自治教会の両方が日本の社会で認められ、弘められるならば、国家は満足すべき理想国家になる、といった彼の思想の核心を主張している。

新島は1890 (明治23) 年1月7日、広津友信に宛てた手紙に漢詩を載せ、「歲月如流不待人、鷄鳴早已報佳辰、劣才喩乏濟民策、尚抱壯図迎此春」<sup>22)</sup>という心境を綴っている。最後の「尚抱壯図迎此春」というのは亡くなる瞬間まで希望を失わず、大きな目的の実現に邁進したいという熱い気持を吐露す

るのである。

ニューイングラントのセイラムにあるビーボデニー・ミュージアムに新島の遺品が残されている。その中に「日々爾之十字架を取可し」という「ルカによる福音書」の言葉がある。神学部の竹中正夫教授は「彼が強くあって、患難を乗り越えることができたのは、聖書と折りであったといっても過言ではあるまい。(中略) これは、まさに在米中の彼の座右の銘であったと思われる」<sup>23)</sup>と述べている。私は新島のキリスト教信仰にプラスして、デモクラシーを挙げたい。これらが亡くなるまで彼の主体性を支え、万難を排して突進する強さを導き出しているのではないか。私は現実世界を生きるには新島のような健かさが必要であることを痛感する日々を送っている。

## 出典

- 1) 「函館紀行」『新島襄全集』5 p.22 以下『全集』と略す。
- 2) 同上 p.23 3) 同上 p.18
- 4) A. S. Hardy ed., *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima*, 1891, p.28 以下 *Life & Letters* と略す。
- 5) *Life & Letters*, pp.3-4 6) ditto, p.8 7) ditto, p.9
- 8) 新島民治宛 慶応3 (1867) 年3月29日付『全集』3 p.32
- 9) 「説教稿Ⅱ」『全集』2 p.309
- 10) *Life & Letters*, p.51
- 11) *Commemoration of the Centennial of the Congregational Church*, Hinsdale, Mass., 1895, p.76
- 12) 新島民治宛 文久2 (1862) 年12月5日付『全集』3 p.34
- 13) 同上 14) 同上
- 15) To Mr. & Mrs. Hardy, Copenhagen, Sept. 3, 1872, *Life and Letters*, p.150
- 16) 「私学校開業・外人教師雇入につき許可願」『同志社百年史』資料編一 p.7
- 17) 同上 p.8
- 18) 「同志社大学の設立について」『全集』1 教育編 p.147
- 19) 「同志社大学設立の旨意」同上 p.140 20) 同左
- 21) 横田安止宛 明治22年11月23日付 書簡編Ⅱ『全集』4 p.246
- 22) 広津友信宛 明治23年1月7日付 同上 p.329
- 23) 竹中正夫「若き新島の折り」『同志社時報』No.100 1995年、p.96

# 2019年度年間活動予定&報告

1月	18日	<b>新年会</b> 第3モッキリセンター(南1東2-2) 会費2,000円程度 吹雪 堀江氏含9名 ぎゅうぎゅう詰め
2月	11日	<b>スキー部練習会</b> キロロスキー場(赤井川村常盤) 参加者4名 新雪&好天&寒冷スキー日和
3月	16日	<b>同志社校友会大懇親会</b> 国立京都国際会館(左京区宝ヶ池) 在京者4名含む北海道グループ10名
	22日	<b>弥生例会(草野ワイン講座!)</b> 北7西4-1-1東カン札幌駅前ビル708号 会費2,000円 貸会議室にて女性4含む15名大盛況
5月	17日	<b>阜月例会</b> 西区・手稲区・小樽界限移動会 手稲区民センター3階5 JR手稲駅5分 会費3,000円
6月	1日	<b>北海道支部総会懇親会&amp;総会</b> プレミアホテル-TSUBAKI-札幌 会費5,000円
	14日	<b>渡航の地函館碑前祭</b> 参加費無料 家族同伴可! 乗用車に分乗
7月	5日	<b>釧路OB会総会</b> 三共八千代寿司(共栄大通4-1-18)
	7日	<b>第16回同立戦ゴルフコンペ(札幌ゴルフ倶楽部由仁コース)</b> <b>室蘭クラブ懇親会</b>
	14日	<b>“DOSHISHA Camp in Hokkaido 2019”</b> アウトドアコミティーが企画するキャンプです 今年は羊蹄山麓で行います
	19日	<b>文月例会</b> 南区・豊平区界限移動ゲリラ会
8月	3日	<b>旭川同窓会夏の集い</b>
	8日	<b>第20回 関西六大学札幌OBゴルフ対抗戦(札幌ゴルフ倶楽部由仁コース)</b> <b>樹徳会主催ビール会</b> 他学部OB参加大歓迎
	24日	<b>オホーツククラブ総会&amp;懇親会</b> 支部総会 ラグビー部牛一頭贈呈:北見市モイワスポーツワールド
9月	20日	<b>月見例会</b> 北区・東区界限移動ゲリラ会 (9月を旧暦表記すると長月です ホテルの立て看板に「同志社長月例会」と記載したところ 同志・社長月例会と読めてしまうので改名を指示されました)
10月	6日	<b>三好杯争奪ゴルフコンペ</b> 故三好支部長に敬意を表し秋にゴルフコンペを開催しております <b>幹事会</b>
11月	10日	<b>同志社ホームカミングデー</b> 京都今出川校舎 VISION2025寄付金募集
	11日	<b>関西六大学札幌OB懇親交流会</b> 交流会は本年度の関西六大学対抗戦優勝校が幹事をします <b>十勝クラブ総会</b>
	22日	<b>小樽クラブ総会&amp;霜月例会</b> La Miho(小樽市入船1-6-9、JR南小樽徒歩3分)
	30日	<b>樹徳会北海道支部 定時総会</b>
12月		<b>釧路OB会忘年会</b>
	7日	<b>クリスマス会</b> プレミアホテル-TSUBAKI-札幌 シャルミエール 会費 6,000円 会員家族を含め約120名の大パーティーです 瘦ッチョのサンタや太ったトナカイが狭い会場を走り回り子供達にプレゼントを配ります

<http://hokkaido.doshisha-alumni.org>

行事予定の詳細はホームページに最新情報を掲載しております、確認をお願いします。